

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4110311331		
法人名	医療法人社団 如水会		
事業所名	グループホーム「かがやきの里」とどろき		
所在地	佐賀県鳥栖市轟木町1574		
自己評価作成日	平成25年9月5日	評価結果市町村受理日	平成25年11月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成25年9月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

玄関は施錠せずに解放しご家族が気軽に訪問できるようにしている。庭には季節に応じて植え替えを行い季節感を味わえるようにしている。居間の窓は大きく太陽の光が温かく差し込む。医療機関が隣接しており入居者・ご家族には安心して頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は、2階建ての2ユニットで、住宅地の中にあり、周囲の家々に溶け込むように建っている。国道がすぐ近くだが、騒音もなく静かで落ち着いた環境の中で入居者への支援が行われている。母体の病院が隣接しており、病院への定期的な受診や、入居者の急変の場合も迅速に対応できる体制を整えている。事業所の庭には、たくさんの季節の花を植えられ、散歩する通路も整備され、季節を身近に感じながら散歩することができる。職員は、年1回「虐待の目」という自己チェックリストも実施され、不適切な対応が起こらない様、予防に努めている。また、入居者が安心した暮らしが送れるよう、日々支援されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印				
	1F	2F			1F	2F			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	1階	2階	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の病院として同じ法人内の施設として、基本理念、行動基準をもとに運営している。カンファレンスで確認している。	地域の病院として同じ法人内の施設として、基本理念、行動基準をもとに運営している。カンファレンスで確認している。	カンファレンス時に理念「喜び支え合いを力に」を唱和して職員間の共通意識化を図るとともに、毎年の目標を別に掲げて実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	あいさつを励行し、顔見知りの関係となれた。	あいさつを励行し、顔見知りの関係となれた。	夏祭りではポスターを地域へ配り、参加を呼びかけ、多くの方の参加があった。地域の河川清掃活動も予定し、地域交流に努めているが、得れる地域の情報が少なく、日常的な交流の機会はまだ少ない。	地域の行事情報等が多く得られる取り組み、地域との交流がより盛んになることに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献はホームとしてはできていない	地域貢献はホームとしてはできていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、開催し家族の参加が多く、意見をきけたり交流の場になっている。	2ヶ月に一度、開催し家族の参加が多く、意見をきけたり交流の場になっている。	会議では、意見が言いやすい雰囲気の中で、家族からの率直な意見や要望も出されている。出された意見を運営に生かしている。欠席された家族にも会議録が送付される。しかし、区長や民生委員の参加が少ない。	地域の理解や協力体制を深められるよう、区長や民生委員等、地域の代表の方の参加を呼びかけを継続し、地域の方が会議に参加する機会を作られることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事は、積極的に担当者にきくようにしている。	分からない事は、積極的に担当者にきくようにしている。	不明な点や問題点などが出た場合は、すぐに対応の相談を行うなど、普段から市担当者と良好な関係が作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設玄関は夜間のみ施錠。臥床時の4点柵など必要性をカンファレンスや状態の変化に応じて行っている。	2Fのフロアは終日施錠している。帰宅願望など強い時はカギにたよらないよう見守りを強化している。	拘束が必要な時は家族等へも十分な説明が行われ、カンファレンス時に解除へ向けて検討されている。しかし、身体拘束の実施状況の記録はない。	身体拘束の実施状況の記録を残し、解除へ向けた検討の材料とすることが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会へ参加し、カンファレンスで報告会、勉強会をおこなっている。	研修会へ参加し、カンファレンスで報告会、勉強会をおこなっている。		

自己	外部	項目	1階	2階	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	居宅支援センターの職員から勉強会を開催していただき、学ぶ機会をつくっている。	居宅支援センターの職員から勉強会を開催していただき、学ぶ機会をつくっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者、ケアマネジャー、リーダーの立会のもと書類の説明を行い、質問等は常時受けている。	管理者、ケアマネジャー、リーダーの立会のもと書類の説明を行い、質問等は常時受けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に意見箱を設置している。運営推進会議においても質問、意見をうけ報告も行っている。	玄関入口に意見箱を設置している。運営推進会議においても質問、意見をうけ報告も行っている。	家族会の開催や、面会の際に声かけをし、意見や要望の収集に努められ、運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスで意見を出し合い、改善に努めている。	カンファレンスで意見を出し合い、改善に努めている。	月1回の合同会議や各ユニットのカンファレンスでは、職員からさまざまな意見を受けている。また、副主任の役職を設け、職員が意見を言い易い体制や雰囲気作りに努められている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回、個人面談を行い、スタッフの目標設定を明確にしている。スタッフの意見も聞く機会にしている。	年に2回、個人面談を行い、スタッフの目標設定を明確にしている。スタッフの意見も聞く機会にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の能力に応じて研修の参加を促している。	個人の能力に応じて研修の参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に加入し、勉強会の参加や他事業所との交流を図っている。	GH協議会に加入し、勉強会の参加や他事業所との交流を図っている。		

自己	外部	項目	1階	2階	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望者または、家族に入居前に十分な説明を行い、施設見学をすすめている。	入居希望者または、家族に入居前に十分な説明を行い、施設見学をすすめている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居初期は、連絡を密にとり入居者の状態を報告し、また、家族の希望も取り入れるようにしている。	入居初期は、連絡を密にとり入居者の状態を報告し、また、家族の希望も取り入れるようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の意見を聞き取り、希望する介護に努めるが、最優先の課題をカンファレンスでスタッフで周知している。	家族の意見を聞き取り、希望する介護に努めるが、最優先の課題をカンファレンスでスタッフで周知している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	難聴などで、コミュニケーションがとりずらく誤解を生じることもあるので、スタッフは関係性をもたせるようにしている。	難聴などで、コミュニケーションがとりずらく誤解を生じることもあるので、スタッフは関係性をもたせるようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には状態の報告を行い、行事や会議の参加をすすめ家族間の意見交換の場所を提供している。	面会時には状態の報告を行い、行事や会議の参加をすすめ家族間の意見交換の場所を提供している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスへ訪問し、以前の知り合いの方との交流できるようにしている。	デイサービスへ訪問し、以前の知り合いの方との交流できるようにしている。	同法人のデイサービスや外出支援(帰宅支援)を行い、自宅の近所の方と、久しぶりの再会をされるなど、馴染みの人や場所への関係の継続支援が行われている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどで少しでも交流できるようにしている。また、性格的に合わないなどあれば、家具の配置換えなどして不快感を与えないようにしている。	レクリエーションなどで少しでも交流できるようにしている。また、性格的に合わないなどあれば、家具の配置換えなどして不快感を与えないようにしている。			

自己	外部	項目	1階	2階	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所になった方や家族とお会いできたときは必ず、挨拶をしている。	退所になった方や家族とお会いできたときは必ず、挨拶をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に確認しケアの修正を行っている	定期的に確認しケアの修正を行っている	意向の把握が困難なでも、わずかな表情や体調変化で、本人の思いや意向を感じ取り、その思いや意向に添うように努められている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	趣味や特技などを把握しレクリエーションに反映させている。	趣味や特技などを把握しレクリエーションに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態の観察についても変化を見逃さないようにしている。	状態の観察についても変化を見逃さないようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーを中心として、スタッフの意見を聞きとり介護計画に反映している。	ケアマネジャーを中心として、スタッフの意見を聞きとり介護計画に反映している。	カンファレンス時にケアプランの内容を検討し、本人と家族の意見や要望も踏まえて作成している。更新は3ヶ月ごとに行うが、本人の状況変化に合わせて、随時介護計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の能力には差があるので、勉強会などに参加させ、介護記録の大切さを確認し、改善につとめている。	記録の能力には差があるので、勉強会などに参加させ、介護記録の大切さを確認し、改善につとめている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	誕生日などに、自宅へ帰る援助や外食をおこなっている。	誕生日などに、自宅へ帰る援助や外食をおこなっている。		

自己	外部	項目	1階	2階	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際は、地域のボランティアの活用をしている。	行事の際は、地域のボランティアの活用をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関係医療機関と連携している。また、外部の医師の往診もある	関係医療機関と連携している。また、外部の医師の往診もある	希望のかかりつけ医の受診支援となっており、隣接の母体の病院や、その他の病院から定期的な往診が行われている。母体病院が隣接している為、緊急時でも24時間も医療的対応できる体制がとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の把握に努め、担当医に連絡をし、指示を仰ぎ、悪化防止につとめている。	状態の把握に努め、担当医に連絡をし、指示を仰ぎ、悪化防止につとめている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、毎日面会し、病棟スタッフとのコミュニケーションをとり関係づくりにつとめている。	入院中は、毎日面会し、病棟スタッフとのコミュニケーションをとり関係づくりにつとめている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にあらかじめ、終末期についての話をし親や配偶者の終末を受け入れる準備をしている、状態変化にともない家族の意見を密にきくようにしている。	入居時にあらかじめ、終末期についての話をし親や配偶者の終末を受け入れる準備をしている、状態変化にともない家族の意見を密にきくようにしている。	入居時に方針を説明し、重度化した場合には、家族や主治医と話し合いを行い、本人・家族の意向を尊重した対応をするように努められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡方法などを確認している。	緊急時の連絡方法などを確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、火災時避難訓練を行っている。今後は災害時の備蓄に力をいれている。	年に2回、火災時避難訓練を行っている。今後は災害時の備蓄に力をいれている。	夜間想定火災訓練が年2回行われ、消防署からの避難方法や避難経路等のアドバイスもあり、その検討や対策も取られている。しかし、地域との連携はこれからである。	今後は、地域との連携体制を構築し、地域の協力を得た、災害対策が実施されるよう期待したい。

自己	外部	項目	1階	2階	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや入浴などとくに気をつけている。	トイレや入浴などとくに気をつけている。	個人情報や事務室で管理している。入浴時やトイレ誘導時、失禁時など、入居者のプライバシーや羞恥心に配慮し、誇りや人格が損なわれないよう、対応されている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決断しやすい質問の仕方をしたり、身振り手振りでもコミュニケーションをしている。	決断しやすい質問の仕方をしたり、身振り手振りでもコミュニケーションをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望をききながら行っている。	利用者の希望をききながら行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服などローテーションさせ、季節に応じている。また月1回の美容師の訪問をうけ、カットしている。	洋服などローテーションさせ、季節に応じている。また月1回の美容師の訪問をうけ、カットしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材やメニューで、食事形態をその日の体調にあわせ変化させている。	季節の食材やメニューで、食事形態をその日の体調にあわせて変化させている。オヤツレクなどで飾り付けなどを自分なりの工夫をしたのしめるようにしている。	家族を呼んで年3回の食事会や、食材業者を選ぶ際は、家族会で試食してもらいアドバイスをもらうなど、家族と入居者の食事を通じた交流の機会を作られている。また、オヤツレクでも一緒におやつ作りを行うなど、食事の楽しむ機会を作られている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者と契約し、福祉食メニューにしている。一律に器に盛るのではなく、個人にあわせた量に変化させている。	業者と契約し、福祉食メニューにしている。一律に器に盛るのではなく、個人にあわせた量に変化させている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをおこなっている。残菌や菌茎にあわせて、使用物品を変えている。	毎食後口腔ケアをおこなっている。残菌や菌茎にあわせて、使用物品を変えている。			

自己	外部	項目	1階	2階	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけ、トイレでの排泄にこだわり介助を行っている。	できるだけ、トイレでの排泄にこだわり介助を行っている。	排泄チェック表に記録を取り、入居者の個別の排泄パターンを把握してトイレ誘導し、可能な限り自立した排泄ができるよう支援に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬にたよらないように、オヤツメニューを工夫したりしている。それでもだめなときは個人にあわせた、薬を使用している。	薬にたよらないように、オヤツメニューを工夫したりしている。それでもだめなときは個人にあわせた、薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	機械浴を取り入れ、車椅子でも湯船にはいれるようにした。	機械浴を取り入れ、車椅子でも湯船にはいれるようにした。	基本的には週3回の入浴日だが、日時や順番など本人の希望応じられている。1階には機械浴も導入され、入居者の安全や職員の介護負担軽減にも努められている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の活動を少し取り入れたりして、生活のなかで自然と休息がとれるようにしている。	昼間の活動を少し取り入れたりして、生活のなかで自然と休息がとれるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	臨時薬は申し送りノートを活用し、他のスタッフも確認できるようにしている	臨時薬は申し送りノートを活用し、他のスタッフも確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望に沿うレクリエーションの提供をする。	希望に沿うレクリエーションの提供をする。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	売店や近所のスーパーへ買い物へ出かけている。	売店や近所のスーパーへ買い物へ出かけている。	事業所の庭には、散歩道を整備され、季節の花を眺めながら散歩されている。隣接の病院売店や近くのスーパーへ出かけたりする等の外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	1階	2階	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭を少し持っている方もいる。	小銭を少し持っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お見舞いの品が届いたりするとお礼の電話をするようにしている。	お見舞いの品が届いたりするとお礼の電話をするようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置など気をつけている。	家具の配置など気をつけている。	季節の飾り物を玄関等に置いたり、夜間のトイレまでの誘導灯設置や、家族からの絵画の展示協力、入居者と一緒に庭の草木手入れを行う等、共用空間作りへの配慮が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置を工夫して、すごしやす雰囲気的大事にしている	ソファの位置を工夫して、すごしやす雰囲気的大事にしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に今まで使い慣れた家具をもってきて頂けるように説明している。	入居の際に今まで使い慣れた家具をもってきて頂けるように説明している。	居室設置のベッドやエアコン以外は持ち込み可能で、入居者それぞれの個性に合わせた画一的でない部屋作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子を自走する、など小さな事からできるように声掛けしている	車椅子を自走する、など小さな事からできるように声掛けしている		